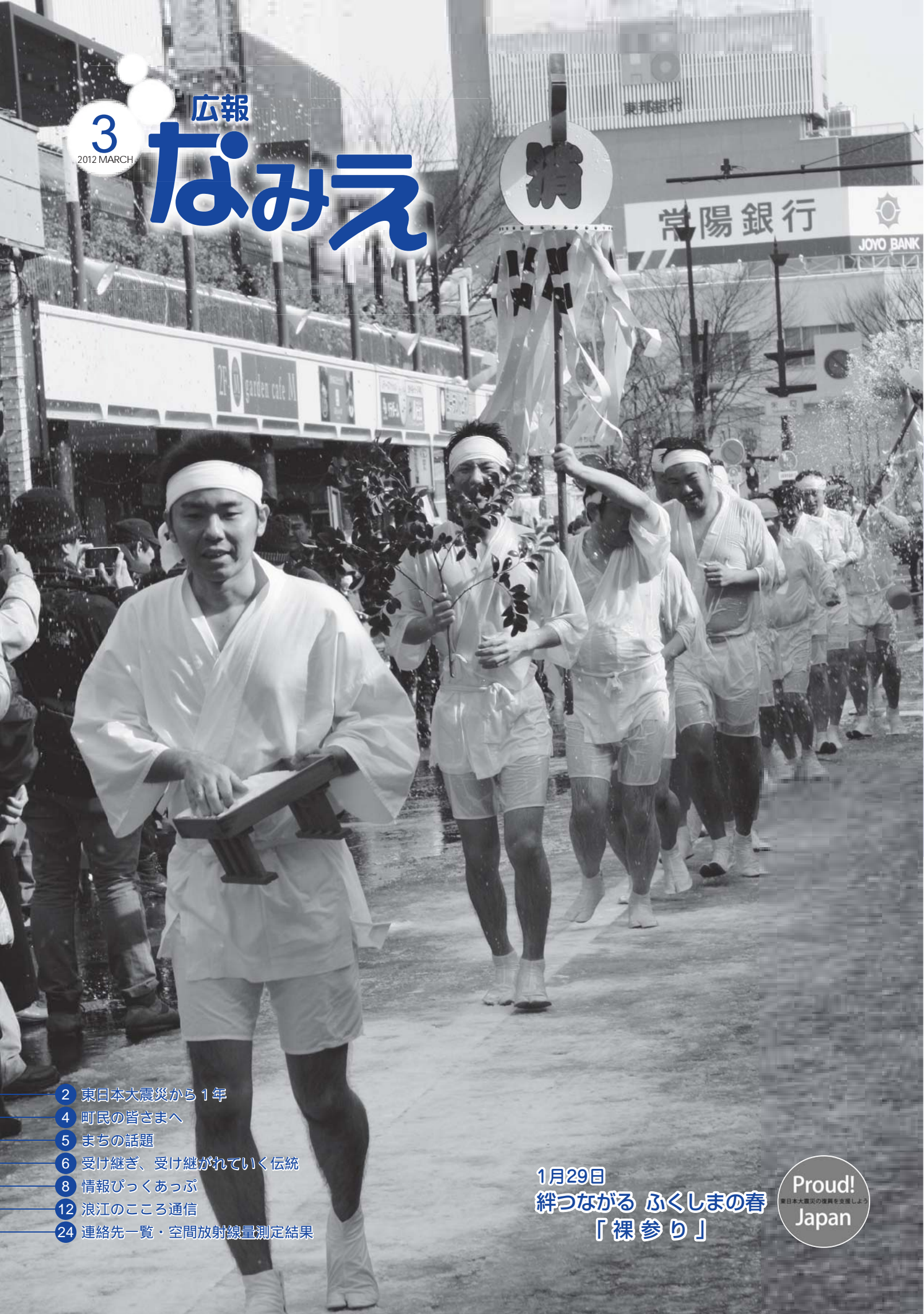


3

2012 MARCH

広報

# なみえ



- 2 東日本大震災から1年
- 4 町民の皆さまへ
- 5 まちの話題
- 6 受け継ぎ、受け継がれていく伝統
- 8 情報ぴっくあっぷ
- 12 浪江のこころ通信
- 24 連絡先一覧・空間放射線量測定結果

1月29日  
絆つながる ふくしまの春  
「裸参り」

Proud!  
Japan

東日本大震災の復興を支援しよう



# 東日本大震災から1年



1月29日撮影

## 避難状況 (2月15日現在)

都道府県	人数	都道府県	人数
北海道	73	三重県	3
青森県	56	滋賀県	3
岩手県	30	京都府	42
宮城県	577	大阪府	67
秋田県	102	兵庫県	32
山形県	304	奈良県	3
福島県	14,120	島根県	11
茨城県	782	岡山県	11
栃木県	391	広島県	15
群馬県	237	山口県	1
埼玉県	830	徳島県	2
千葉県	649	香川県	1
東京都	1,045	愛媛県	15
神奈川県	532	高知県	3
新潟県	728	福岡県	22
富山県	21	佐賀県	5
石川県	48	長崎県	9
福井県	32	熊本県	7
山梨県	67	大分県	3
長野県	61	宮崎県	10
岐阜県	26	鹿児島県	7
静岡県	92	沖縄県	34
愛知県	43	国外	8



ロッカーが倒れ、書類が散乱した役場庁舎  
 校庭に避難した大堀小の児童たち  
 津島へと避難する車の列  
 浪江高校津島校に開設された避難所  
 多くの家屋が倒壊  
 津波が襲い、甚大な被害を受けた請戸地区  
 一時立入開始  
 仮設住宅での支援  
 浪江小、浪江中開校  
 浪江町合同慰霊祭  
 二本松市で開催された十日市祭  
 町民の皆さんが集う交流会  
 マリンパークなみえ  
 請戸地区に設置された慰霊塔  
 請戸小の黒板に書かれた自衛隊からのメッセージ



平成23年3月11日、午後2時46分。  
 今まで経験したことのない大きな長い揺れ。浪江町では震度6強を記録しました。間もなく津波が沿岸部を襲い、181名が亡くなり、3名が未だ行方不明、600棟以上の家屋が被害を受けました。そして翌日、福島第一原子力発電所事故による避難指示。あれから1年を振り返ります。



- 3月11日
  - M9.0の地震発生 浪江町震度6強
  - 沿岸部に大津波
- 12日
  - 福島第一原子力発電所事故による避難指示
  - 災害対策本部を津島支所へ移設
- 15日
  - 浪江町全域へ避難指示
  - 避難所を二本松市内へ設置
  - 災害対策本部を二本松市役所東和支所内に設置
- 4月
  - 旅館・ホテルへ2次避難開始
  - 警戒区域、計画的避難区域の設定
  - 公益目的での一時立入開始
  - 津波被害地区遺体捜索活動開始
- 5月
  - 仮設住宅の入居開始
  - 警戒区域への一時立入（一巡目）開始
  - 役場機能を福島県男女共生センターへ移設
- 6月
  - 内部被ばく検査開始
- 8月
  - 福島出張所開設
  - なみえの盆踊り開催
  - 浪江小中学校開校
  - 一次避難所閉鎖

- 9月
  - 桑折出張所、本宮出張所開設
  - 仮設津島診療所開設
  - 警戒区域への一時立入（二巡目）開始
- 10月
  - 浪江町合同慰霊祭開催
  - 浪江町復興検討委員会始まる
  - 復興町民懇談会開催（～11月）
- 11月
  - いわき出張所開設
  - 線量計の貸し出し開始
  - 復興なみえ町十日市祭開催
  - 南相馬出張所開設
  - 町民アンケートの実施
- 12月
  - 原子力被害の完全賠償を求める双葉地方総決起大会開催
- 1月
  - 浪江町成人式開催
  - 浪江町消防団出初式開催
  - 浪江町復興ビジョン中間報告
  - 町民交流会が各地で始まる
  - 子ども向けアンケートの実施
- 2月
  - 一時立入（三巡目）開始

(2月15日現在)



## なみえ絆 いわき会設立

2月5日、設立世話人5名の呼びかけにより、いわき市文化センターにて「なみえ絆いわき会」の設立会が開催されました。

当会は、いわき地方とその近郊に避難している町民を対象とした会で、当日は約80名が参加しました。今後は、方部ごとの交流会や会員の意向に沿った活動を行っていく予定です。



なみえ絆いわき会



ふるさと浪江会

## ふるさと浪江会定期総会

1月21日、東京都文京区「椿山荘」で平成23年度ふるさと浪江会定期総会が開催されました。総会で事業報告として町への義援金活動などが報告されたほか、平成24年度事業として要請があった場合は、積極的に町へ協力することなどが決定されました。また、総会後の交流会の中で、町長へ義援金が手渡されました。

がんばれ!

なみえ

## まちの話題

### 学校給食に「なみえ焼そば」

2月15日、山形県大江町の小学校4校の学校給食に「なみえ焼そば」が登場しました。浪江町のご当地グルメを「震災や原発事故にも負けずに、力強く歩きだしている浪江町の方々の気持ちのこもった“なみえ焼そば”をみんなで大切にいただきますしょう。」と紹介してくださいました。



### 消防団だより

東日本大震災、原発事故からもう1年近くになります。今年は念願だった消防団出初式も無事に終わり、1月29日には、福島市で火防祈禱祭「裸参り」も行われ、1年の無火災を祈願しました。

2月5日、幹部会で今年度の事業計画が決定され、4月7日に幹部辞令交付式、10月7日に秋季検閲式を行う予定です。

浪江町消防団副団長 佐々木保彦



## おめでとうございます

浪江焼麺太国が、地域づくり総務大臣表彰団体表彰を受賞しました。この賞は、地域をより良くしようと尽力された団体に贈られるのもで、地域づくりへの情熱や想い、さまざまな活動が認められての受賞となりました。



## 町民の皆さまへ

### 桃の花咲くころ

浪江町長 馬場 有

2月のある朝、西の方に目をやると安達太良山頂に雪が覆い、そこに朝日が差し雪晴れの空がまっ青に映し、素晴らしいコントラストを描く光景を見て、「本当の空が見たい」との言葉を思い出しました。

皆さまにおかれましては、あれから1年、長くつらく悔しい生活を強いられ、おりに、本心に心が痛みます。一日も早くこのつらく苦しい避難生活から全ての町民が解放され、放射能から美しい故郷を戻し、皆さんの暮らしと故郷を「再興」したいと考えます。

今年もまた「桃の花」が咲く季節が巡ってまいりました。皆さまには、気を休めることができない状況と存じますが、何とぞ踏ん張っていただきたいと思っております。

さて、政府では近々、警戒区域・計画的避難区域の見直しを線量によって区域割りする案が浮上しています。私はこの議論を行うためには、大きく2つの前提の整理が必要だと考えています。

まずは、実際の生活に不安のある多くの町民のため、どの場所に住まおうと震災前の生活ができる賠償・補償の確実な

確保、町外でも安心して暮らせる復興公営住宅の確保が必要です。

その上で、政府として避難指示を出した以上、浪江町、さらには双葉郡の復興戦略を政府が示すべきと考えます。安心と感じられる水準での除染の実施、日常を安全・安心できる生活環境に戻すための復興公営住宅や復興住宅の建設、汚損した住宅の修繕、上下水道・インフラの復旧、道路の復旧(国道6号、114号の放射線遮蔽のための部分トンネル化等)、放射能に汚染された農地の復旧、学校・医療機関の整備、雇用の確保のため国家プロジェクトによる新規企業誘致(例：太陽光発電を普及させるための蓄電池産業等)などの課題が山積しています。

これらの課題実現のためには、具体策をワンパッケージで提示すべきであります。今回発足した復興庁を始めとする政府に強く要求し、町民の皆さんの不安が少しでも軽減されるよう尽力してまいります。

今年は何年になく寒気が居座り、非常に寒い日が続いておりますので、くれぐれもご自愛を祈りメッセージとします。

## 原子力損害賠償紛争審査会への要望事項

- 1 避難指示に伴う精神的損害の算定根拠の見直しをすること。
- 2 生活費の増加分の賠償を避難費用として算定すること。
- 3 避難指示に伴う精神的損害以外で被災した精神的損害を指針に盛り込むこと。(避難区域住民の放射能飛散による精神的苦痛、遺体収容ができなかったことによる精神的苦痛、家族の離散など)
- 4 損害賠償請求に関する弁護士等への委託料を賠償の対象とすること。
- 5 早期に就労・事業再開をした者への賠償を配慮すること。
- 6 避難住民が元の生活基盤にもどるまで賠償すること。
- 7 財物価値の喪失・滅失に伴う損害は、再調達価格を基本とし、早期に賠償すること。
- 8 地方公共団体の税収減および本件事故により実施した事業を賠償の対象とすること。
- 9 機能不全に陥っている原子力紛争解決センターの強化改善をすること。(約6000件の申立に3件の和解決していない。)
- 10 紛争審査会は被災地の現状把握と意見交換のために定期的に被災地で開催すること。
- 11 警戒区域等の見直しによる賠償に当たり、賠償の平等性を確保すること。
- 12 審査に当たり、被災者参考人制度(各階層、各年代)を導入すること。
- 13 家畜による財物損害の賠償をすること。
- 14 除染作業に伴う財物の賠償をすること。
- 15 のれん・商圏に対する賠償をすること。



# 受け継ぎ、受け継がれていく伝統

浪江町には、私たちが生まれるずっと前から受け継がれている伝統行事、伝統芸能があります。流れる月日の中で、受け継がれてきたもの。全町避難となり、それぞれが存続の危機となりましたが、形を変えながら今もなお受け継がれています。先人たちの想いと絆をつないでいくために。



毎年2月の第3日曜日に若野神社（請戸）の例大祭「安波祭」が開催されています。「安波祭」は、ふくしまの祭50選にも選ばれているお祭りです。若野神社社殿前で請戸芸能保存会による神楽や田植え踊りが披露され、紅白2基のたる神輿が部落内を練り歩きます。祭の醍醐味は、下帯姿の若衆に担がれたたる神輿が、威勢良く極寒の海に入る力強さです。五穀豊穡を祈願する「田植え踊り」は福島県の無形文化財に指定されています。震災後も保存会により受け継がれています。踊り子は、地元の小学生の女の子のほか、中学生から社会人までの経験者が集

まります。震災後、県内外にばらばらになった踊り子たち呼びかけ、8月21日にはいわき市で復興公演を開きました。その後も県内外各地で踊りを披露し続けています。2月19日、「安波祭」の日に合わせ、福島市と二本松市の仮設住宅5カ所で行った田植え踊りを披露し、避難生活を送る町民らを励ました。請戸地区の住民が多く避難する北幹線第一仮設住宅では、目に涙を浮かべながら、美しい舞を見守る姿もありました。保存会長の渡部忍さんは、「津波による犠牲者への追悼。みんなに元気を与えること。浪江町、請戸を忘れてほしくない。伝統を継承していきたい。この4つの想いで田植え踊りを披露している」と話してくださいました。今後は、7月末の明治天皇百年祭や10月の地域伝統芸能全国大会で公演が予定されています。（請戸の田植え踊りは、地域郷土芸能大賞特別賞を受賞しています。）



## 安波祭の由来

「若野神社」「安波大明神」は請戸の浜の守り神ですが、延宝年間（1675年）には潮水を献上し、その水の清濁によってその年の豊漁、不漁を占ったと伝えられ、今もなおそれが続いています。

海上安全の神「安波さま」は、また農作の神様としても知られ、昔、凶作に見舞われたとき村民が神社に集まり、豊作を祈願して「田植え踊り」を奉納したところ、その年は豊作に恵まれたので、それ以来この田植え踊りも伝承されています。この神社の祭りには南国的な明るさ、華やかさとの活気が満ちています。

祭りの当日には、神社から金銀の御幣を持った奉賛の行列に続き、神輿が部落を巡り歩きます。また小学生が踊り子の仕度をし、花笠をかぶり、「歌い姿さま」の歌に乗って大船主の家々を回り歩く田植え踊りの様は、誠に美しく微笑ましいものです。やがてこれらの行列は砂浜に作られた「おこや」と呼ばれる祭壇に到着、紅白の幕の中に神輿を安置し、神事が執り行われ、神楽、田植え踊りを奉納します。また一方では「あんば（安波）、あんば」の掛け声勇ましく、午前9時ごろから正午まで、若者たちが担ぐ「樽神輿」が部落を練り回ります。豊漁を祈り、海上安全を願うこの若者たちのたくましい一団は、やがて海へ向かって躍り入ります。2月の海の波は肌を刺すような冷たさですが、そんなことには無関心のように、大団扇を先導として氷の玉のように砕け散る波しぶきの中で大暴れするのです。やがてこの「樽神輿」も海水にずぶ濡れとなって砂浜に上がっていきませんが、この感動的な姿は請戸でなければ見られません。その後、潮水をくみ、その水の濁り具合でその年の豊漁、豊作の吉凶を占う神事が行われます。



## 火防祈禱祭 裸参り



1月29日、福島市で「絆つながる ふくしまの春」が開催され、「ふくしま祭りめぐり」の中で浪江町の伝統行事「火防祈禱祭 裸参り」を行い、白装束の若衆約20名が無人と成っている町内の防火を祈願しました。



若衆は、福島駅東口駅前広場で身を清めた後、沿道に集まった多くの方々から冷水を浴びせられながら、福島駅前通りを駆け抜けました。浪江町消防団第一分団第一部によって受け継がれている「裸参り」。この日まで、部内で話し合いを重ねてきました。「今年やらなければ、来年以降も続いていかない。今まで続いてきたものを絶やすわけにはいかないです。やめる理由はないですから。」と部長の西英一さんは力強く話してくださいました。異郷の地で行われた「裸参り」は絆をつなぎ、避難生活が長く続く町民らに元気を与えてくれました。

## 火防祈禱祭（裸参り）の由来

浪江町権現堂は、近世「高野の里」と呼ばれており、寛政（1790年代）のころ、権現堂村に改められた。当時の街並みは、80数戸の家々が東西（現在の本城・元町）に延びていたが、安政2・3年（1855・6年）に火災に遭い、続けて安政6年（1859年）2月9日に発生した大火は、西風にあおられ燃え広がり、わずか3軒を残す大災となった。

その大火後、村民合議により安政6年夏から万延元年夏にかけ、街並みを南北（長さ約550m、幅員約110m）に延ばす工を起し、中央に堀が整備された。堀は後に埋められたものの、それが現在の新町の街並みである。

工事完了後の文久初め（1861～1864年）時の若頭 吉田喜八氏の発案により、毎年正月8日（旧暦）に一戸一名ずつ参加して、下帯姿で出羽神社に集まり無病息災を祈願し、それが終わると各家に水を掛け、火災が起こらないことを念じて廻ったのがこの祭の始まりといわれている。

はじめは裸一本に腰へ縄を纏っただけの姿だったが、昭和4年に当時浪江警察署長の大澤幸吉氏の注意で、単衣を纏うようになったが、それぞれが不揃いだったため、昭和5年、消防部長島山武氏が服装を白衣に統一し、現在の形となった。

祭の始まった当時、この行事の主役であった若者組は、消防組を兼ねていたことから、明治に入り消防組が組織されてからは、消防組に継承され、現在の浪江町消防団に引き継がれた。





問合せ  
 申込み  
 電話  
 ファックス  
 メールアドレス  
 ホームページアドレス  
 フリーダイヤル



## + 仮設津島診療所のお医者さん

☎ 仮設津島診療所 ☎ 0243-24-1431

3月1日(木)	関根・今村・手塚
2日(金)	関根・玉井・手塚
5日(月)	関根・佐川(午後)・手塚
6日(火)	関根・佐藤・手塚
7日(水)	関根・西・手塚
8日(木)	関根・今村・手塚
9日(金)	関根・玉井・手塚
12日(月)	関根・佐川(午後)・手塚
13日(火)	関根・佐藤・手塚
14日(水)	関根・西・手塚
15日(木)	関根・今村・手塚
16日(金)	関根・玉井・手塚
19日(月)	関根・佐川(午後)・手塚
20日(火)	関根・佐藤・手塚
21日(水)	関根・西・手塚
22日(木)	関根・今村・手塚
23日(金)	関根・玉井・手塚
26日(月)	関根・佐川(午後)・手塚
27日(火)	関根・佐藤・手塚
28日(水)	関根・西・手塚
29日(木)	関根・今村・手塚
30日(金)	関根・玉井・手塚

(都合により変更あり)

## 自動車の変更登録を忘れずに

自動車税は、毎年4月1日現在の自動車の所有者(割賦販売の場合は使用者)に課税される県税です。自動車を売却してない場合や他人に譲ったり廃車するなどにより実際に自分が持っている場合でも、3月末日までに管轄の運輸支局などで所有者の移転や一時抹消の登録手続きを済ませていないと引き継ぎ元の所有者に課税されますので、ご注意ください。

なお、転居したときに住民票を異動させても、車検証上の住所は異動しません。自動車税の納税通知書は、車検証上の所有

者または使用者の住所に送付されますので、運輸支局などでの住所の変更登録も忘れずに行ってください。

☎ 県税務課 自動車税担当  
 ☎ 024-521-7070

## 軽自動車(原付自転車等)の譲渡・廃車の手続き

軽自動車税は、毎年4月1日現在を基準日として、軽自動車(原付、小型特殊、軽二輪、軽四輪、二輪の小型自動車等)を所有している方に課税されます。譲渡などによる所有者の変更手続き、使わなくなった軽自動車等の廃車の手続きは、3月31日までに済ませましょう。

これらの手続きが遅れた場合、課税されますので、ご注意ください。

■原付自転車、農耕用車両など「浪江町ナンバー」のもの  
 ☎ 県税務課課税係  
 ☎ 0240-34-2135

■軽自動車(軽四輪自動車、軽二輪、二輪の小型自動車等)「いわきナンバー」のもの  
 ☎ 福島県軽自動車協会いわき支所  
 ☎ 0246-72-0656

## 平成24年度自動車税の定期課税

平成23年度は東日本大震災の影響により課税時期を延期しましたが、平成24年度は5月31日

## 平成23年度浪江町就学援助申請受付

平成23年度の浪江町就学援助の申請を受け付けています。

▽対象者  
 避難先の自治体で援助を受けられなかった方

▽援助内容  
 学校給食費(実費) および就学に必要な学用品費等にかかる経費の一部を援助します。

※該当する保護者の方でまだ申請されていない方は、ご連絡ください。

☎ 浪江町教育委員会  
 ☎ 080-2807-6933

## 相馬税務署からのお知らせ

東日本大震災の発生により、所得税や個人事業者の方の消費税の申告が、例年と異なる点がありますので、ご注意ください。

■申告・納期限の延長等  
 浪江町の住民の皆さまは、平成22年分の所得税や個人事業者の消費税をはじめ、平成23年3月11日以降に納期限がくるすべての国税の申告・納付等の期限が延長されています。

なお、期日が指定された場合は、広報紙や国税庁のホーム

税務署名	電話番号
相馬税務署	0244-36-3111
福島税務署	024-534-3121
会津若松税務署	0242-27-4311
郡山税務署	024-932-2041
いわき税務署	0246-23-2141
白河税務署	0248-22-7111
須賀川税務署	0248-75-2194
喜多方税務署	0241-24-5050
二本松税務署	0243-22-1192
田島税務署	0241-62-1230

ページ等でお知らせします。

また、相馬税務署から平成23年分の確定申告用紙はお送りしていませんのでご了承ください。

■所得税の還付・軽減免除  
 震災により住宅や家財、車両などに被害を受けた方は、確定申告または更正の請求等の手続きをすることで、すでに納付したまたは源泉徴収された所得税が還付されたり、軽減・免除される場合があります。

なお、申告期限が延長されている場合であっても、サラリーマンや年金所得者の方で所得税の還付申告をする場合などは、申告書を提出することができません。

■問い合わせ先等  
 各種申告手続き、確定申告書等の用紙請求、その他国税に関するご相談のある方は、全国の税務署で受け付けています。最寄りの税務署までご連絡ください。

## 食品における放射性物質測定

町では、食品中の放射性物質を測る測定器を配備し、さまざまな食品等の安心安全のため3月1日から放射性物質測定を実施します。

- ▷対象者 浪江町に住所を有する方
- ▷測定地 浪江町役場上竹倉庫事務所(二本松市上竹81-1)
- ▷測定品目 飲用水(井戸水・わき水など)、避難先での家庭菜園など農産物、その他の食品(山菜等)  
 ※市販されているものや販売予定のものは除きます。
- ▷測定機器 食品内放射性物質測定器(米国CAPINTEC社製 CAPTUS-3000A NaI(Tl)シンチレーション検出器) ※検出下限値10Bq/kg
- ▷受付時間 8時30分～17時(平日のみ)
- ▷申し込み方法 事前に電話(090-6064-2857)または上竹倉庫事務所窓口にてお申し込みください。  
 ※1世帯1回1品のお申し込みとなります。2品目以降のお申し込みは、測定結果受領後となります。
- ▷持ち込み方法
  - 事前申し込み後、指定された日時に上竹倉庫事務所に測定希望食品等をご持参ください。
  - 測定する飲用水、食品などの主な処理方法
    - ①飲料水の場合  
 測定には、500ml必要となります。3回程度すすいだペットボトルに入れてご持参ください。
    - ②農産物などの食品の場合  
 測定には、500ml(500g以上)必要となります。食べる状態にしたものをみじん切りにして新しいビニール袋に入れ持参してください。
- ▷測定結果 測定結果は、後日郵送します。測定日(持ち込みするとき)に、住所と宛名を記載し、80円切手を貼った封筒をお持ちください。
- ▷測定委託料 無料

☎ 浪江町上竹倉庫事務所 ☎ 090-6064-2857  
 ☎ 浪江町災害救援班 ☎ 0243-62-0151

## 大切な郵便物を受け取るために

旧住所(浪江町)あての郵便物の転送は、郵便局へ転居届を出してから1年間です。継続して転送を希望する方や避難先住所が変更になった方は、お近くの郵便局の窓口に転居届を出しましょう。

☎ 福祉こども班  
 ☎ 0243-62-0123

## 介護サービス利用者負担減免期間延長

浪江町介護保険の被保険者に現在実施されている介護サービスの利用者負担減免措置は、平成25年2月28日まで延長されました。ただし、介護保険施設等の食費・居住費等の減免は、2月29日までで終了しました。

免除証明書は、引き続き提示が不要です。

☎ 健康保険班介護保険係  
 ☎ 0243-62-0123

## 平成23年分所得税確定申告

平成23年分確定申告は、申告期限が延長になっています。浪江町では、平成23年分所得税確定申告の受付事務は行っていませんので、最寄りの税務署にお問い合わせください。

住民税の申告は、平成24年2月中旬に税務課から「住民税申告の手引き」を各世帯に送付していますので、ご確認ください。

☎ 県税務課課税係  
 ☎ 0243-62-0123

ビル9階  
 ▷相談受付時間  
 8時30分～17時15分  
 (土日、祝日は除く。)

☎ 福島県産業復興相談センター  
 ☎ 024-573-2561

理士等の専門家が課題の解決に向けて、きめ細かなサポートを実施し、経営支援・再生支援等を行いますので、お気軽にご相談ください。

▽対象者  
 東日本大震災および原子力発電所事故により被災した中小企業者等

▽場所  
 福島市置賜町1番29号 佐平

## 事業者の皆さまへ福島県産業復興相談センター

「福島県産業復興相談センター」では、東日本大震災および原子力発電所事故の影響により甚大な被害を受けた県内中小企業者等の事業再開や事業再生を支援するため、中小企業診断士や税



### 国家公務員採用試験

人事院では、次のとおり国家公務員採用試験を実施します。\*申し込み方法や受験資格等の詳しい内容は、お問い合わせください。(ホームページからも確認できます。)

試験名	受付期間 (郵送の場合は、受付最終日の通信日付印有効)	第1次試験
総合職試験 (院卒・大卒程度)	4月2日(月)～9日(月) 【インターネット】	4月29日(月)
	4月2日(月)～3日(火) 【郵送・持参】	
一般職試験 (大卒程度)	4月10日(火)～19日(木) 【インターネット】	6月17日(日)
	4月10日(火)～11日(水) 【郵送・持参】	

問 人事院東北事務局第二課試験係  
TEL 022-2221-2022  
URL http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyohatn

### 災害弔慰金

東日本大震災による度重なる避難所の移動等により、肉体的、身体的に重大な影響を受け、亡くなった方のご遺族に対し、災害弔慰金を支給します。

浪江町に住所を有し、度重なる避難所の移動等により、肉体的、精神的に重大な影響を受け、亡くなられた方のご遺族

▽支給対象者  
●ご遺族の主たる生計維持者が死亡した場合…500万円  
●その他の方が死亡した場合…250万円

▽申請方法  
提出書類を記入の上、郵送または窓口で預金通帳の写しを添えて提出してください。

▽注意事項  
双葉郡内の申請件数が多いため審査には相当の時間を要します。\*提出書類が必要な方は、ご連絡ください。

問 福祉こども課(災害給付班)  
TEL 0243-62-0123

### 津波被害現況調査

2月下旬から3月中旬まで、浪江町内の海岸部において、震災当時の津波の規模や道路の損害状況など、津波による被災地状況の調査を実施しています。

▽発注者  
国土交通省 都市局  
▽調査実施者  
日本工営株式会社

### 借上げ住宅にお住まいの方へ

ふるさとふくしま巡回就職相談ステーション(福島県委託事業)では、これからのことやお仕事についてお悩みの方に電話相談や来所による個別相談を実施しています。お気軽に各ステーションへご連絡ください。

ふるさとふくしま巡回就職相談ステーション福島  
TEL 024-554-4156  
FAX 024-554-4157  
ふるさとふくしま巡回就職相談ステーション郡山  
TEL 024-886-2113  
FAX 024-886-2113

### シベリア強制抑留者の皆さまへ

特別給付金を支給しています。請求の受け付けは、3月31日(当日消印有効)までです。まだ請求していない方は、平和祈念事業特別基金までご連絡ください。

問 平和祈念事業特別基金  
TEL 0570-059-2004  
FAX 0570-059-2004  
IP電話・PHSからは03-5860-2748  
平日 9時～18時  
(ただし、3月31日(土)は受け付けていません。)

### 高齢歩行者の交通死亡事故多発

高齢歩行者の交通死亡事故が多発しています。歩行中、事故にあわないために、通り慣れた道路でも横断するときは、注意しましょう。

- よく見渡せる安全な場所を選びましょう。
- 渡る前に必ず止まって安全確認をしましょう。
- 横断中も周りに注意して横断しましょう。

運転者に早く見つけてもらうことがとても大切です。ちょっとした用事で出かけるときでも、反射材を身につけましょう。

問 双葉警察署 TEL 024-566-3156

### 春季全国火災予防運動

3月1日～7日  
「消したはず 決めつけないで もう一度」

平成23年中双葉郡内で27件の火災が発生しました。(浪江町内は2件)建物火災18件のうち住宅火災は5件でした。住宅火災から死傷者を無くするため住宅用火災警報器を早期に設置しましょう。

#### ■住宅防火 いのちを守る 7つのポイント■

- 火災は一人一人の心がけと、家族・ご近所の協力体制が必要です。日ごろから、万が一の場合の協力体制を心がけましょう。
- 寝たばこは、絶対にしない。
- 内装材は火を広げにくい不燃性のものを使う。
- 避難の経路はいつも整理整頓をする。
- 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
- 家のまわりに燃えやすいものを置かない。
- ご近所の火災警報器の音にも関心を持つ。
- 町内会などで実施される防災訓練へ参加する。

問 双葉消防本部 TEL 0240-25-8523

### つながる ところ

浪江の復興をテーマにした日英独共同制作のドキュメンタリーで、震災前の町が写っているビデオテープや写真を探しています。お持ちの方がいらっしゃいましたら、ご連絡ください。郵送の場合は、テープや写真をお返しする際、郵送料もお支払いします。

連絡先 三宅 響子(母が権現堂出身です。)  
〒267 0066 千葉県千葉市緑区あすみが丘5 39 1

問 080-5485-9719 TEL miyakekyoko@gmail.com

### 国民健康保険・後期高齢者医療制度にご加入の皆さまへ

#### ■現在入院中の方や、これから入院する予定の方へ

平成24年3月1日から入院時食事療養費(※1)および入院時生活療養費(※2)の標準負担額の自己負担額をご負担いただくようになります。(医療費は、今まで通り免除となります。)

現在入院中や、これから入院する予定がある住民税非課税世帯の方は、『限度額適用・標準負担額減額認定証』の提示により入院時食事療養費および入院時生活療養費の標準負担額の自己負担額が減額となります。この減額は、申請した日の初日までしかさかのぼることができないので、お早めに申請してください。

#### ▷手続きに必要なもの

- 印鑑(シャチハタ、スタンプ印は不可。)
- 被保険者証(国民健康保険……黄色または水色、後期高齢者……オレンジ)
- 過去1年間に90日以上入院した方は、入院期間の分かる書類(領収書や入院証明書など)

問 健康保険班国保年金係 TEL 0243-62-0123

### 町民交流会

	開催日	会場
県内町民交流会	3月25日(日)	南相馬市原町区福祉会館 視聴覚室
なみえのしゃべり場	3月18日(日)	茨城県立健康プラザ 3階 大会議室
	3月20日(祝)	千葉商工会議所 14階 第1ホール
集まっ会	3月22日(木)	二本松市市民交流センター 多目的室

問 避難生活支援班 TEL 0243-62-0123

\*この欄には、連絡がとれた方のみ掲載しています。住民票を町外に異動された方で、掲載希望の方はご連絡ください。

問 行政運営班 TEL 0243-62-0123

### お誕生

出生届は14日以内に(1月)

こどもの名(性別)	親の名	住所
今野 遼也(男)	卓也・智江	津島
小黒 潤(女)	純隆・優	高瀬
高江 悠希(男)	悠治・佳苗	権現堂
作山 ひなた(女)	真哉・明香	権現堂

### お悔み

死亡届は7日以内に

死亡者名	年齢	住所
平成23年3月		
阿部 祐之	50歳	田尻
渡部 莉斗	0歳	牛渡
平成23年6月		
四條 一夫	60歳	苅宿
平成23年7月		
仁田 利雄	83歳	末森
若月 慶充	89歳	立野
平成23年8月		
小椋 テル	90歳	南津島
平成23年10月		
牛渡 サクイ	99歳	牛渡
平成23年11月		
太田 安清	78歳	請戸
平成23年12月		
高住 久吉	88歳	苅宿
1月		
吉田 津	81歳	樋渡
植田 慎徳	78歳	川添
吉田 セイ	77歳	加倉
今野 了治	74歳	樋渡
長澤 方子	89歳	川添
白岩 恒夫	62歳	幾世橋
鈴木 岩雄	95歳	権現堂
佐藤 正慶	87歳	立野
日浅 博幸	43歳	北幾世橋
久田 宗良	58歳	川添
三原 トヨ	91歳	中浜
横山 正廣	64歳	立野
菅野 ソメ	95歳	川添
伊藤 正士	68歳	川添
大竹 寿宏	33歳	南津島

### 浪江町への義援金

2月15日現在、792件3億3,548万5,417円の義援金が寄せられています。このうち、2億7,607万円が町民の皆さまへ配分されています。皆さまの温かいご支援、ありがとうございます。





静岡県

# 根岸 淑子さん(立野)

家族で静岡県磐田市に避難する根岸さんからお手紙が届きました。



立野の風景(平成20年8月撮影)

浪江町の皆さん元気でお過ごしでしょうか。  
 遠くふるさとを想いながら机に向かいました。現在、私は静岡県磐田市に住んでいます。福島からはとても遠いので、ふるさとを思う気持ちが皆さんと会いたい気持ちにはひとしおです。  
 避難所を転々とされた方、仮設住宅に入居された方、そして私のように県外に避難せざるを得なかった方、同じ住民であるにもかかわらず、全国に散らばってしまいました。皆さんも同じ思いだと思っています。苦しさ、悲しさ、悔しさ、胸の痛み、それらを共有しているからわかちあえるのだと思います。  
 今日は震災後に作られた唄を紹介したくて筆を持ちました。『ふるさとなみえ』というタイトルです。私た

ちの思いをそのまま詩にしてあります。この唄の作詩、作曲、歌手ともに浪江町生まれの方々です。  
 作詩 根本昌幸さん(苅野出身)  
 作曲 民謡歌手の原田直之さん(高瀬出身)  
 歌手 沢田貞夫さん(苅野出身)  
 詩を読んで涙し、曲を聞いては涙してあります。とても良い唄です。浪江町の皆さんもぜひ聞いてみて、歌ってみてください。  
 この時期にと思われるかもしれませんが、だからこそ必要なこともあります。唄は、人のこころを動かします。生きる術の原動力にもなります。私も精神的にまだまだ立ち直れる状況ではありませんが、皆さまにも、自分にもふるさと浪江町の風景を忘れず、胸にとどめて頑張つてほしいと思います。テレビで繰り返し放映される津波の映像を見ながら、犠牲になられた方々がたくさんいらつしやる、そのご家族の苦しみ、悲しみを思ったときに、「私たちは頭を垂れているばかりではいけない!生き残った者の使命として、地に足を踏ん張つて生き抜かなければ」と、少しずつそう思えるようになりました。  
 皆さまのために何ができるか。「こんなに遠い静岡にいて、手も届かず、せめて文字を書くことで皆さんと通じ合いたい。」そう思いました。皆さまにお会いしたいです。

- 1 「ふるさと なみえ」  
ふるさと離れ 遠くへきたよ  
ふるさとはいい けれど帰れない  
帰りたいなあ わがふるさとへ  
みどり豊かな あの町へ  
ああ夢にみるよ ふるさと浪江
- 2 鮭のほりくる 泉田川よ  
にぎわいをみた 請戸の浜よ  
帰りたいなあ わがふるさとへ  
桜花咲く 丈六へ  
ああ夢にみるよ ふるさと浪江
- 3 秋は紅葉の 高瀬の溪谷よ  
美しかった あのの宮  
帰りたいなあ わがふるさとへ  
とどろきわたる 不動滝  
ああ夢にみるよ ふるさと浪江

今も福島第一原発で命をかけて働いている方々に、あらためて敬意を表します。  
 寒い中、風邪などひかぬよう、ご自愛ください。  
 \*追伸  
 この4月から主人と2人で南相馬市原町区に住むことになりました。あせらず前向きに少しずつ目標を見つけていこうと思っています。  
 ☎090 6781 6003

# 浪江のこころ通信



第9号

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、福島県内外に分散避難した浪江町民。長期化する避難生活、先の見えない不安の中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

こうした町民の思いをつなげるために、「浪江のこころプロジェクト」が立ち上げられました。東北圏地域づくりコンソーシアム推進協議会が中心となり、全国各地のNPO、大学等の皆さんが取材を進め、浪江町との連携のもと「浪江のこころ通信」が編集・発行されます。

浪江のこころプロジェクトは、分散避難している町民の皆さんの声を「浪江のこころ通信」を通してお届けし、ふるさと浪江町がかつての暮らしを取り戻すことへの願いとこだわりを発信・共有しようとするものです。

東北圏地域づくりコンソーシアム推進協議会は、東北圏(7県)の地域コミュニティ再生や協働のまちづくりの推進を目的として、大学、NPO、企業、経済団体、行政等が連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。

「浪江のこころ通信/第9号」への感想をお寄せください。  
 【連絡先】〒976 0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1  
 男女共生センター内 浪江町役場二本松事務所  
 「浪江のこころ通信」宛  
 FAX.0243 22 4261



広報なみえ 2012.3.1



## 公民館ふれあいまつり



(12)





千葉県

## 豊田久美子さん(高瀬)

取材者:(特活)ちば市民活動・市民事業サポートクラブ 鍋嶋・長澤  
取材日:2月14日

### 子どもたちの笑顔が一番

震災の当日は子どもを連れてスバリゾートハワイアンズに出かけていたので、偶然にも津波の被害を免れることができました。帰り道の国道は走れない状態で、山道を6時間かけて帰宅しました。偶然が重なり、一家全員津波の被害を免れて無事でした。3月14日には千葉市に住んでいる叔母を頼りに、親族10人で避難してきました。今は千葉市内の賃貸住宅に夫の両親、私と子どもたち3人の家族6人で住んでいます。震災から1年、避難生活をしながら子どもの成長を見守っていてあつというまに時が過ぎたように感じます。

夫は原子力発電所関連企業に勤めていて、4月から福島県内で一人暮らしをしています。週末が休みのときは戻ってきてくれますが、身体のこと心配です。昨年3月18日が長男の卒園式でしたが、震災で中止に。夏には卒園者の親子で再会を果たして、数カ月遅れの卒園式で手作りの卒園証書もらうことができました。千葉では、入学した小学校でできたたくさんの友



左から萌絵ちゃん(5歳)、久美子さん、悠人くん(1歳)、大貴くん(7歳)



秋田県

## 稲垣颯一郎さん(小4 権現堂)

取材者:(特活)秋田県南NPOセンター 八嶋  
取材日:2月12日

### 「家族一緒に暮らしたいな」

颯一郎くんのご家族は、震災直後、福島県内のおばあちゃんの家へ逃げた後、3月15日におばあさんのいる秋田県横手市増田町に避難しました。現在お父さんは埼玉県内、お母さんは福島県内で仕事をしているために離れていますが、おばあちゃん、お姉さんと一緒に住んでいます。



これから「かまくら」になる予定の雪の山の前で撮りました。左から、真於さん(中1)、颯一郎さん、おばあちゃん、門馬由利恵さん

元気で頑張ってるよ。浪江小学校は歩いて3分くらいで着いたけど、増田小学校は徒歩で1時間くらいかかるかな。でも、お友だちといっぱい話しながら行くから楽しいし、大変じゃないです。冬になってからは車で送ってもらっているけど、帰りはスクールバスです。今住んでいるおばあさんの家は温泉宿で、地震の後には他にも避難してきた人たちが大広間にたくさんいました。宿は1000年位の歴史があるみたいです。

周りは山で囲まれていて、近くにはりんご畑があります。そこで遊んだり、登校で鍛えられたのか分らないけど、「けつこ」う跳べるんじゃないの?」とお姉ちゃんも言っていたから、陸上部で走り幅跳びをやっています。2週間くらい前に肺炎になっちゃったんだけど、休み時間には友だちとドッジボールで遊ぶほど元気になったし、体を動かすのが好き。浪江のときも放課後に児童クラブで友だちと遊ぶのがすごく楽しかった。一番好きなものはゲームで、攻略本を読んで、クリアしていくのが楽しい!将来はゲームのプログラマーになりたいです。

週末にお父さん、お母さんが来るのが楽しみです。お父さんは8時間位、お母さんは5時間近くかけて冬の道を運転して来るのが心配だけど。浪江の家の中を掃除して、きれいに家族と一緒に暮らせるようになれるといいなと思います。

だちとサッカーをしたり毎日元気よく遊んでいます。私は子ども入園・入学をきっかけにママ友ができました。実家の両親は二本松の仮設住宅に移ったため、震災で離れたなれになったのが残念でなりません。携帯電話を使ったことなかった両親でしたが、今では電話を通して連絡を取り合っています。

移り住んではじめて、親戚の心強さを感じ、何より子どもたちの笑顔が一番だと実感しました。広報なみえの「浪江のこころ通信」を通して、知人の近況や元気な声、前向きな姿勢を知ることができ、元気づけられています。また、基本的な暮らし方が変わって戸惑うこともありま。それは、子どもに家で大きな物音を立てるとはいけな





## 岡本 亜矢さん(酒田)

取材者：高崎経済大学櫻井研究室 櫻井  
取材日：2月11日

### 震災で直面したさまざまな経験を 子どもたちの人生の糧にしてほしいと願う

岡本亜矢さんは現在、夫の宗広さん、長女の梨瑚さん(中1)、次女のちりさん(小4)そして愛犬のとん平と東京・町田市で生活する。震災後の4カ月間は、山形市内の総合体育館などの避難所で長く暮らした。



左からちりさん、梨瑚さん、亜矢さん、とん平、宗広さん

震災後、原発の影響を心配して、親戚がまとまって山形市の総合体育館に避難しました。避難所の生活環境は少しずつ変化しつつ、結局、子どもたちの夏休みまでの4カ月間をそこで過ごすことになりました。その間、近隣の方からお風呂を借らせていただいたり、物資を提供していただいたり、地域の皆さんには本当に温かい手を差し伸べていただきました。人のつながりの尊さを実感した4カ月間でした。

その後、夫の仕事の関係で現在の東京・町田市に移りました。子どもたちも私たちも生活環境は浪江のときとは変わり、浪江のときの1学年1クラスの規模から、8クラスもある大規模校への転校。浪江では、夫の親・兄弟姉妹も身近な所にいましたが、今は福井県やいわき市などにバラバラに暮らしており、支え合って暮らしてきた以前のように、すぐに会える距離ではなくなりました。それが残念です。

姉の梨瑚はバトミントン部に所属して毎日頑張っていて、妹のちりも浪江のときに頑張っていた陸上をこちらでも続けています。浪江の陸上の監督が、震災後も合宿や大会があるたびに声をかけてくださり、クラブが存続していることに感謝しています。浪江とのつながりはこれからも大切です。今年の3月には、ふるさと学校として浪江の小中学生が1泊で福島に集まる予定されていて、とても楽しみです。これからも浪江町主催の交流の場には積極的に参加したいと思っています。夫とも子どもことはよく話し合います。何よりも放射線量が心配です。子どもたちが独立するまでは県外で頑張るつもりですが、そのあとは浪江に帰りたいと思っています。行政の皆さんには、「帰りたい」という思いはあっても帰れない」という県外避難者の思いをぜひ考慮してほしいです。

夫とも子どもことはよく話し合います。何よりも放射線量が心配です。子どもたちが独立するまでは県外で頑張るつもりですが、そのあとは浪江に帰りたいと思っています。行政の皆さんには、「帰りたい」という思いはあっても帰れない」という県外避難者の思いをぜひ考慮してほしいです。



## 堀川 文夫さん(権現堂)

取材者：高崎経済大学櫻井研究室 櫻井  
取材日：2月11日

### 「この震災がもたらした真実とは何か」 子どもたち、そして社会に向けて発信していきたい

堀川文夫さんは、妻の貴子さん、そして愛犬ももと愛猫みかんとともに静岡県富士市で生活する。震災後も、浪江で経営していた学習塾の子どもたちを励まし、交流をくり返してきた。震災の経験と教訓をふまえ、新たな土地での歩みを始めようとしている。

私は震災前から、自分の塾に通う子どもたちに原発の危険性や避難方法などを伝えていました。まさか本当にこんなことが起こるとは思いませんでしたが、現在の線量でも危険性は否定できないはず。そこに人々が暮らし続けることには違和感があります。浪江町として集団でどこか別の土地に移転するなども選択肢の一つでしょう。しかしそれどころか、これだけの災害に直面したにもかかわらず、わずか1年足らずで国内の原発も再稼働を容認するなど、何だか元の日本に戻ってしまうような危惧があります。あの大地震と原発事故が私たちの社会にもたらしたものは何か。私たちはどんな社会をめざすべきなのか。子どもも大人も真剣に議論すべきときではないでしょうか。あまりにも東北、福島、そして浪江町から声が上がらないことが残念です。できれば福島・浪江の皆さんと意見を交わしながらつながりをつくることのできる機会が欲しいですね。

県内避難者に比べ、県外避難者への対応の足りなさを実感しています。また、「自主避難」という言葉でくくられた、東電と国の責任逃れの犠牲者たちへの対応の足りなさには腹立たしさを通り越して悲しくなります。実は私たち夫婦も、県外での暮らしについて昨年末までは気持ちの整理がつかせませんでした。今はこの静岡の地で頑張っていると思っています。ただ、たとえどこに暮らしていても浪江町民という気持ちに変わりはありません。



左から貴子さんと文夫さん





埼玉県

## 渡邊 幸さん(権現堂)

取材者：高崎経済大学櫻井研究室 櫻井  
取材日：2月10日

### 「浪江は私たちのたった一つのふるさと」 娘の言葉に思いを新たに

震災後、津島から福島市、新潟・三条市などを転々とし、現在は埼玉県所沢市に夫の良一さん、次女の喜沙羅さん(小6)、長男の魁杜君(中1)、そして愛犬のクレヨンと暮らしている。ご両親は福島市に、大学生の長女・未佳里さんは仙台におり、家族は離れたままである。

今生活している所沢市は、夫の出身地であり、仕事の関係もありやってきました。現在の住まいに移る際には、所沢市役所の職員の方に誠意ある熱心な対応をいただきました。あらためて、人のつながりやご縁が大切であることをこの震災を通して実感しています。こちらの学校に通う2人の子どものも、学校に慣れ親しんでいることにホッとしています。ただ、夫の仕事の先行きが不安なこと、そして何よりも浪江町のこれからの見えないため、先のことを何も決められないことが悩みです。この春に政府が決定する新たな避難区域がどのようになるのかも心配です。

私たちは、父の代から長年、権現堂でガソリンスタンドを経営していたこともあり、お店に來られる浪江町の皆さんや、地域のつながりは本当になつかしいです。子どもたちは、権現堂の商店街の夏祭りや太鼓をしたり、ママさんバレーをしていたり、行政に対抗のスポーツ大会などを楽しんでいたことを思い出します。原発事故によって、



左から魁杜君、良一さん、喜沙羅さん、幸さん

こうした地域のつながりが失われたことが寂しく悲しいです。ですが、今も商店街の皆さんが声をかけてくださり、時折、十日市などが開かれるたびに二本松に行っています。ありがたいことだと思っています。

私たちの避難先は、どちらかと言えば浪江町よりも都会であったり便利であったりもします。長女がいる仙台もそう。ややもすると、知らず知らずのうちにその便利さに安住してしまうのではないかと気になっていました。そんなとき、長女から「仙台や福島もいけれど、浪江はやっぱり私たちのふるさと」との言葉を投げかけられ、ハッとしました。遠くに暮らしていても、帰ろうと思えば帰ることのできる心の支えこそがふるさと。これからどんなことがあっても、ふるさと浪江を子どもたちに残さなければならぬ。そんな思いを新たにしています。今は子どもの安全を優先して県外にいますが、これからも浪江町の皆さんとのつながりは大切にしていきたいです。数日後、埼玉で開催される町民交流会、なみえ



宮城県

## 渡邊 正見さん(加倉)

取材者：地域社会デザイン・ラボ 遠藤  
取材日：2月13日

### お店をオープンしました 常連さんも増えていますよ！

浪江町ではローソンのオーナーとして店舗を経営していた渡邊さん。被災後は、福島市や仙台市のホテルに移り住みながら、現在は家族3人で仙台市太白区に暮らしている。新たに仕事をはじめ忙しい毎日を送っている。



ローソン名取関上店(宮城県名取市)のオーナーとなり、仕事が始まった。「ぜひお立ち寄りください！」  
左から、正見さん、茂之さん、京子さん

浪江町では、ローソン店舗のオーナーとして無我夢中で働き、ようやく12年目を迎えたところでした。地域の皆さんにお店を愛していただいたことを思い出します。ようやく経営に慣れて、これからはスタッフに仕事を任せて浪江をもっと楽しんだり交流したり、あちこちに出かけたいと思っていた矢先の震災でした。とても残念です。

震災直後は、ローソン本部から「浪江町では、ローソン店舗のオーナーとして無我夢中で働き、ようやく12年目を迎えたところでした。地域の皆さんにお店を愛していただいたことを思い出します。ようやく経営に慣れて、これからはスタッフに仕事を任せて浪江をもっと楽しんだり交流したり、あちこちに出かけたいと思っていた矢先の震災でした。とても残念です。」

「支援がありホテルを福島市や仙台市に確保してもらえたのでそこに避難をしました。これからの居住地として、山形や秋田の物件も探しましたが、福島から遠いこともあり宮城に居を構えることにし、現在は仙台市太白区のマンションに家族3人で住んでいます。

「関上の中心にあるお店だから頑張つてね！」と応援していただいています。これからは不安がありません。原発の補償が今後どうなるのか、みんなに福島・浪江・震災のことが忘れられてしまうのではないかと「ふるさと浪江」を大切にしながらも、町にはもう戻れないかもしれないとも思っています。だからこそ、何かをあたにするより、自分でしっかりと生計を立てていくために仕事に取り組んで行こうと日々暮らしています。

先日仙台で開催された浪江町民のみなさんの交流会には、仕事の都合で参加できませんでしたが、今後はぜひ参加してみたいです。浪江の人に会うとホッとしますから。





## 佐久間ともえさん(権現堂)

取材者：ビーンズふくしま 味川  
取材日：2月6日

### 土地は変われど剣道でつながる絆！



左からつぐみちゃん(小6)、ともえさん、智史くん(中2)、中居優司さん

息子さんの智史くんの中学校が卒業式の日  
に震災。その後実家である三春に戻られ避難  
生活をしている佐久間さん一家。家族の方が  
皆さん何らかのスポーツをしていて、それを  
通して家族の絆、地域との絆を強めているの  
が印象的でした。

地震のときは家族3人で家に  
おり、携帯の警報が鳴り外に出  
ました。始めは何の音かわかり  
ませんでした。智史は大事なP  
SPをもって外に出ました。  
家は半壊。瓦が落ち窓ガラス  
は割れました。浪江小が近かつ  
たので、娘を迎えに行き、大熊  
町の職場にも行こうとしたん  
ですが通行止めになって行け  
ませんでした。津波の警報が鳴つ  
た時は避難場所である津島へも  
行こうとしましたが、凄い渋滞

であきらめま  
した。  
11日はみん  
なで車で寝ま  
した。次の日  
に瓦を片付け  
ようと思つて  
いましたが原  
発事故の話が  
あり、その日  
車で三春の実  
家へ来たんで  
す。今も網戸  
のままの所が  
あるんで昨年  
の豪雨で水が  
入つてるんじや

ないか心配です。  
浪江で剣道を教えていたんで  
すが、こちらでもスポーツ少年  
団で剣道を教えています。息子  
も娘もスポ少に入って割と溶け  
込んでると思います(笑)。娘は  
雪が多くて走り込みができない  
のでスイミングに通つて体力作  
りをしています。  
とにかく雪道が怖いですがね、  
慣れてないから。いろいろ遠く  
で移動にガソリンがかかります。  
あと寒い！  
浪江町はとも住みやすく  
いいところです。帰れるものな  
ら帰りたい。夏涼しくて、冬暖  
かい。雪も降らないし。あとは  
やっぱり地域の方がいい人た  
ちが多くて。  
思い出されるのは、「ゆうゆ  
う堂」「三原屋」さん。おもちゃ  
屋さんなんです。そちらの方  
たちがとてもおもしろくていい  
人たちだったんです。向かいの  
家のおばあちゃんもどうして  
か気になってます。  
帰町できたら、剣道の先生方  
だったり、保護者のお父さんや  
お母さん方にお会いしたいです。  
稽古会でお会いできる方もいま

#### 皆さんからのコメント

中居優司さん  
ゆうゆう堂のおっちゃんに  
会いたい。太っちょ焼きそば  
食おうぜ！  
智史くん  
仲のよい友だちと遊びたい。  
早く復興して帰れるように  
してほしい。

つぐみちゃん  
私もお兄ちゃんと一緒に友  
だちと遊びたい。もっと友だ  
ちと会える機会が欲しいです。  
今年の市町村駅伝で、浪江の  
代表になれるといいな。応援  
してね！



## 高木真智子さん(室原)

取材者：NPO法人市民公益活動パートナーズ 古山  
取材日：2月12日

### みんな、元気になっていますか？

南相馬市小高区の祖母の家から郡山の親戚宅、県境に隣接する  
白河郡西郷村の国立那須甲子青少年自然の家、そして猪苗代リゾ  
ートホテルでの避難を経て、昨年7月過ぎから福島市のシンボル、  
信夫山の麓の借り上げ住宅に、祖父、ご両親との4人で暮らして  
います。



ご両親と一緒に。

子どもたちは全員無事でした  
震災当日、あの時刻は、私が  
勤めていたコスモス保育園では、  
ちょうど午睡の時間帯でした。  
子どもたちを慌てて園庭に避難  
させているうちに、町からバス  
が手配され、その中に避難しま  
した。私の担当は2歳児で、訳  
が分からずきょとんとしていま  
したが、年長の子も私たちは余  
震や尋常ではない周りの様子に、  
怖さで泣く子ども多かったです。  
す。次々に子どもたちのお迎え  
があり、請戸で津波があったこ  
ともそのときに知りました。以  
前、請戸の児童館に勤務したこ  
とがあり、そのときの子もた

ちの安否がとても気がかりでし  
た。  
私自身は午後8時ごろには帰  
ることができたものですから、  
仕事でいわきに出かけて渋滞に  
巻き込まれた保護者の方が午後  
10時ようやく園に到着できた  
ことや、隣りのふれあいセンタ  
ーに避難した人が溢れ、園内のホ  
ールなどを開放して5、6人の先  
生方が翌日まで対応したことな  
ど、後から大変だったことをい  
ろいろ聞きました。  
私も家族も、健やかです  
私たち家族は、一時、祖父が  
親戚を頼って離れ離れになりま  
したが、すぐに4人が一緒に2  
次避難所で過ごし、縁あって、  
この十分な広さのある福島の家  
を借りることもできました。こ  
こは信夫山の裾にあるためか、  
放射線量が高いことだけが心配  
です。  
まもなく1年を迎えますが、  
避難所などを移動している間は、  
「いつになったら？」という切  
羽詰まった気持ちでしたが、福  
島の家に着いたからには、心  
に余裕ができたのでしょうか、

あつという間です。  
現在、私は休業中ということ  
もあり、この4月までは長い充  
電期間だと思つて、短大時代を  
過ごしたいわきや須賀川の甥の  
面倒を見に出かけたり、趣味で  
ある手芸や工作などをし、時  
には作ったものをお世話になつた  
方々へプレゼントしたりしてい  
ます。また、親しい友人とは互  
いの住まいの中間点で会うたり、  
メールで連絡をしたりしていま  
すが、最近、手紙をよく書くよ  
うになりました。  
一度は浪江の家を見たいです  
祖父や私の身体を気遣つて、  
一時帰宅はいつも両親だけで、  
大事なものを福島に持ち帰つて  
くれてます。いつになるか分  
かりませんが、見に帰りたいと  
思っています。  
昨年8月に約半年遅れの卒園  
式が二本松で開かれました。年  
長さんだけの式でしたが、本  
当に久しぶりに保育園の先生方  
や父兄の方々に会いできました。  
時折、なみえ焼そばを見かけ  
たり、知り合いの顔を見るたびに、  
浪江を思い出しています。

が、ばらばらに避難されてる方  
も多いのでなかなか難しいです。  
私は最初から実家に避難し、  
仮設に入らなかつたので全然周  
りの様子が分からず、始めのう  
ちは申請しなければいけないも  
の等がわからなかつたんですが、  
今は月2回広報が届くようにな  
り、そのおかげで色々分かつて  
とても助かっています。子ども  
たちも広報を楽しみにして見て  
るんです。





## ヨガ&エアロピクス「UP-BEAT」長山のり子さん(権現堂)

取材者：浪江町役場 長沼・嶋原  
取材日：1月20日

### 初心に帰って始めてみよう

結婚と同時に浪江町に住んで30年。平成8年に開いたエアロピクスと整体ヨガのスタジオは、100人を超える受講者と6人のスタッフで運営し地元を根を下ろしていましたが。震災後の出会いから後押しされて、昨年6月に福島市大森でアットホームな雰囲気の「UP-BEAT」を再開されました。4月からは新たな挑戦も始まる予定で、福島の人々が元気になるように活動していきたいと明るい笑顔を見せてくれました。

震災後、家族と津島活性化センターから元東和小学校体育館に避難しました。避難所に行く途中、場所を聞くために立ち寄った商店で出会った方に道を案内してもらいました。それが縁で空き家を紹介され3月17日から福島市に住み始めました。

主人の仕事先が郡山市だったことや子どもが新たに通い始めた小学校に楽しんでいること、家族は一緒に大切だと思いい、放射能は心配だけど福島市で頑張っていこうと決めました。1カ月ぐらいいはぼーっとして、今までの仕事はやめようかとも思いましたが、同じように郡山でスタジオを経営している友人から週1回のレッスンの手伝いを頼まれました。スタジオに行くうちに、震災に負けずに一人で一生懸命やっている友人の姿に、私も負けられない。一から始めてみようという勇気がわきました。借上げの条件に合う住まいが見つかるより先に子どもの学区内にスタジオが見つかり、6月に「UP-BEAT」を再開しました。

浪江町のときと同じように、「UP-BEAT」を再開しました。浪江町のときと同じように、「UP-BEAT」を再開しました。浪江町のときと同じように、「UP-BEAT」を再開しました。



長山さんと生徒の皆さん。  
後列左から藤田さん、横山寛子さん、高倉澄江さん、福島郁子さん  
前列左から藤田はなちゃん、長山さん、福島光結ちゃん、福島琉生くん



## 陶 俊明さん(小野田)

取材者：一般社団法人ふくしま連携復興センター郡山事務所 岩崎  
取材日：2月15日

### 窯を始めて100年目を二本松で再スタート！

大玉村で妻の絹子さんと二人暮らし。今年はおじいさんが大陶窯を始めてからちょうど100年。今は土に触れない生活を送っていますが、大堀相馬焼への思いと向上心は衰えていません。大堀相馬焼協同組合が今度二本松につくる共同窯で、新しい焼物に挑戦していきたいと思っています。



小野田の区長をしていたので、震災当日はまず地区内のお年寄りの安否確認に回りました。家内と娘は先に津島に避難しました。津島で息子、娘とは分かれて、川俣、飯坂、北塩原と転々と避難生活をしました。当初はおにぎりや家族1個のときもありましたが、避難先の住民の方々も大変な状況の中、ほんとうに感謝しています。周囲にも人を傷つけるようなことをする人がいなくなったのが、たいしたものだと思います。10月になって、家内の昔の恩師の紹介で大玉村の空き民家に落ち着くこと

ができました。現在、娘はいわき市に住んでおり、息子は愛知県瀬戸市で焼物の修業をしています。

今年は私の祖父が大陶窯を始めてちょうど100年になりました。100年目の年をどうしようか、考えた矢先の震災でした。避難生活では土に触れませんが、大堀相馬焼をもっと盛り上げたい、もっと良い焼物をつくりたい、という気持ちは衰えていません。腕がなまらなように、祖父の描いた手本を見ながら絵付けの練習をする毎日です。

今度大堀相馬焼協同組合で二本松市内に仮の共同窯をつくるそうなので、私も窯を使わせてもらい、今の人たちにも使ってもらえる新しいジャンルの焼物づくりに挑戦するつもりです。

土も釉薬もいままでと同じのものを使うのは難しくなりましたが、300年の伝統がある大堀相馬焼のおもむきは再現して守っていききたいです。

震災の直後も近所のひとり暮らしのお年寄りが気がかりでしたが、戦後苦労して、やっと安心した暮らしができるようにつけてくれた上の世代の方々が手厚くされるべきだと思います。そして浪江の皆さんには、とにかく、「くさらないで希望だけは無くしてくるな。」と言いたいです。

冬の次は春が来ます。必ずこれからのいいことがあると信じて、できることをしていきましょう。

ズエアロ」をやっています。「キットズエアロ」は、外で自由に遊べない子どもたちのストレス解消にもなっています。スタジオには、福島市の方だけでなく浪江町の方も通ってくれていて、幼児から高齢者まで20名ほどが和気あいあいと楽しく受講しています。

福島市に来たことも、スタジオが見つけなかったのもたまたま出会った人からの紹介で、人との縁が繋がって今があるように感じます。初心に帰り、規模は小さくてもアットホームな感じで、長くゆつくり地道に続けていきたいと思っています。整体ヨガは珍しいらしく、カルチャーセンターから声を掛けてもらっ



## 連絡先一覧

- 浪江町役場二本松事務所  
〒964-0904  
福島県二本松市郭内一丁目196-1  
(福島県男女共生センター内)  
TEL 0243-62-0123 FAX 0243-22-4261
- 浪江町役場二本松第二事務所  
〒964-0904  
福島県二本松市郭内一丁目81  
FAX 0243-23-7970
- 浪江町教育委員会  
TEL 0243-62-0301
- 二本松避難者生活支援班  
TEL 0243-62-0302
- 福島出張所  
〒960-8601  
福島県福島市五老内町3番1号  
(福島市役所9階西側)  
TEL 024-535-0750 FAX 024-535-0753
- 本宮出張所  
〒969-1203  
福島県本宮市白岩字堤崎494番地22  
(本宮市役所白沢総合支所1階)  
TEL 0243-44-1185・1186  
FAX 0243-44-1187
- 桑折出張所  
〒969-1611  
福島県伊達郡桑折町字東大隅18番地  
(桑折町役場2階)  
TEL 024-582-2130 FAX 024-582-2135
- いわき出張所  
〒970-8026  
いわき市平字堂根町1番地の4  
(いわき市文化センター2階第4会議室)  
TEL 0246-24-0020 FAX 0246-24-0026
- 南相馬出張所  
〒975-0039  
南相馬市原町区青葉町2-62-2  
(旧東北農政局福島農政事務所南相馬統計・情報センター)  
TEL 0244-23-1112 FAX 0244-23-1114
- 浪江町議会事務局  
〒964-0917  
福島県二本松市本町一丁目60番地の2  
(安達地方広域行政組合自治センター2階)  
TEL 0243-22-9531 FAX 0243-22-9532
- 浪江町社会福祉協議会  
〒964-0904  
福島県二本松市郭内一丁目81  
(浪江町役場二本松第二事務所内)  
TEL 0243-62-0877 FAX 0243-23-7970
- 仮設津島診療所  
〒969-1404  
二本松市油井字長谷堂230番地  
TEL 0243-24-1431

## 空間放射線量測定結果

町が独自に実施した空間放射線量測定結果をお知らせします。

\*町では、線量計を貸し出ししています。各出張所でも手続きできます。詳細はお問い合わせください。

問 災害救援班(放射線管理) TEL 0243-62-0123

(測定地:地上高H=1.0m 単位:μSv/h)

### 浪江町内小中学校等 ※浪江町内は、月1回で測定

測定地	測定値 (12月16日)	測定値 (1月13日)	測定値 (2月17日)
役場津島支所	6.97	7.69	6.29
津島小学校	8.11	7.80	6.98
津島中学校	10.6	7.46	2.52
浪江高等学校津島校	15.5	14.1	9.37
苅野小学校	8.24	8.03	7.60
中上ノ原A町営住宅(公園中央南)	7.00	6.96	6.75
大堀小学校	6.78	6.84	6.14
浪江中学校	9.92	10.0	9.55
ふれあいセンターなみえ	9.14	6.27	2.28
浪江小学校	1.29	1.26	1.48
浪江高等学校	3.90	3.87	3.82
浪江日本ブレーキ機工場前	1.70	1.45	1.38
浪江町役場	0.54	0.61	0.60
工スエス製薬(株)福島工場敷地(北西)	0.64	0.55	0.64
幾世橋小学校	0.55	0.67	0.54
請戸小学校	0.30	0.31	0.31
浪江東中学校	0.54	0.58	0.55

● 2月17日、津島中とふれあいセンターは、除染後の測定値

### 仮設住宅等(二本松市)

測定地	測定値 (2月6日)	測定値 (2月13日)	測定値 (2月20日)
郭内公園仮設住宅	0.32	0.35	0.36
塩沢農村広場仮設住宅	0.15	0.15	0.17
安達運動場仮設住宅(Aブロック)	0.29	0.33	0.31
安達運動場仮設住宅(Bブロック)	0.23	0.24	0.24
浪江小学校(旧下川崎小)	0.44	0.47	0.49
浪江中学校(旧針道小)	0.41	0.42	0.40
建設技術学院跡仮設住宅	0.24	0.25	0.25
大平農村広場仮設住宅	0.26	0.27	0.29
杉内多目的運動広場仮設住宅(F1西)	0.17	0.18	0.21
杉内多目的運動広場仮設住宅(掲示板前)	0.19	0.20	0.20
旧平石小学校仮設住宅	0.24	0.24	0.25
杉田農村広場仮設住宅	0.53	0.58	0.58
杉田住民センター仮設住宅	0.26	0.29	0.31
永田農村広場仮設住宅	0.14	0.13	0.12
岳下住民センター仮設住宅	0.33	0.33	0.36

### 仮設住宅(桑折町、福島市)

測定地	測定値 (2月2日)	測定値 (2月10日)	測定値 (2月16日)
桑折駅前仮設住宅(第一集会所)	0.12	0.10	0.12
桑折駅前仮設住宅(第二集会所)	0.13	0.12	0.12
桑折駅前仮設住宅(第三集会所)	0.16	0.14	0.16
宮代第二仮設住宅	0.17	0.19	0.21
宮代第一仮設住宅(集会所)	0.22	0.22	0.23
北幹線第一仮設住宅(北集会所)	0.12	0.13	0.13
北幹線第一仮設住宅(南集会所)	0.12	0.15	0.15
笹谷東部仮設住宅(東集会所)	0.16	0.20	0.18
笹谷東部仮設住宅(西集会所)	0.21	0.22	0.22
南矢野目仮設住宅(北集会所)	0.11	0.12	0.13
南矢野目仮設住宅(南集会所)	0.09	0.11	0.11
森合仮設住宅(集会所)	0.30	0.27	0.29
しのぶ台仮設住宅(中央)	0.11	0.09	0.10
旧佐原小学校仮設住宅(中央)	0.08	0.07	0.07

### 仮設住宅(本宮市)

測定地	測定値 (1月31日)	測定値 (2月7日)	測定値 (2月14日)
恵向仮設住宅(集会所)	0.22	0.20	0.25
恵向仮設住宅(談話室)	0.41	0.42	0.40
高木運動仮設住宅	0.30	0.31	0.32
小田部仮設住宅	0.24	0.25	0.26
石神第一仮設住宅	0.31	0.34	0.35
石神第二仮設住宅	0.28	0.26	0.29
和田石上仮設住宅	0.21	0.22	0.22
栗木平仮設住宅	0.20	0.20	0.22



平成24年3月 554  
毎月1回1日発行

発行・編集 福島県浪江町役場総務課  
福島県二本松市郭内一丁目196-1男女共生センター内  
TEL 0243-62-0123(内) FAX 0243-22-4261  
http://www.town.namie.fukushima.jp



ホームページやフェイスブックは、  
携帯からもご覧いただけます。  
QRコードをご利用ください。

